



第2回シカ捕獲業務検討会に局・署職員120人が参加＝熊本市食品交流会館

第2回シカ捕獲業務検討会を開催

シカ捕獲に関する情報や技術・知識の共有を図る

1月26～27日の2日間、熊本市食品交流会館多目的ホールにおいて、林野庁をはじめ近畿中国局・北海道局・森林総合研究所九州支所から参加をいただき、「第2回シカ捕獲業務検討会」を開催。局・署職員など約120人が参加しました。

これは、シカの採餌などによる農林業被害や森林生態系、生物多様性への影響が全国的に深刻となっている現状の中、局・署等が一体となり、シカ捕獲の知識と技術を集結させ、シカ捕獲技術・捕獲効率の向上と、情報や技術・知識を関係者が共有する事を目的に、各森林管理署等で行っているシカ捕獲の取り組みについての報告および意見交換を行ったものです。

講演をいただいた各局署からは、①管内におけるシカ被害の現状と対策への取り組みについて(指導普及課)②箱罠の捕獲実績と網箱罠の開発の経緯について(森林技術センター)③シカ被害の現状、くくり罠による捕獲、シカネット設置箇所での捕獲への取り組みについて(宮崎北部署)④各種くくり罠の検証と改善、今後の対策について(都城支署)⑤シカ捕獲効率の向上を図るため、罠の設置方法、場所、餌の工夫による効果的な誘引の取り組みについて(屋久島署)⑥シカ対策を「重点課題」と位置つけた取組の内容について、およびシカネットに変わる「三本集植造林による膝下刈」などの事例(大分西部署)⑦赤外線カメラによるシカの行動把握と猟友会との協定によるシカ捕獲の取組について(鹿児島署)報告がありました。



講演する宮崎大学細川吉晴教授

概要とハンター等と連携したシカ捕獲の実績についての報告がありました。

その後意見交換では、皆さん実際に現場でシカ捕獲に取り組みされている事から活発な意見交換があり、シカ捕獲に関する情報や技術・知識の共有が図られたものと思われ

最後に、宮城勇朗計画部長より全体をおした講評をいただき、盛況の内に2日間にあたる検討会を終了しました。(担当＝指導普及課)

検討会では、まず、平之山俊作九州森林管理局長および林野庁経営企画課鈴木正勝企画官よりあいさつを受けた後、「シカ捕獲と自然の恵みはどう生かすか」と題し、宮崎大学農学部細川吉晴教授より

講演をいただいた熊本市食品交流会館から、①管内におけるシカ被害の現状と対策への取り組みについて(指導普及課)②箱罠の捕獲実績と網箱罠の開発の経緯について(森林技術センター)③シカ被害の現状、くくり罠による捕獲、シカネット設置箇所での捕獲への取り組みについて(宮崎北部署)④各種くくり罠の検証と改善、今後の対策について(都城支署)⑤シカ捕獲効率の向上を図るため、罠の設置方法、場所、餌の工夫による効果的な誘引の取り組みについて(屋久島署)⑥シカ対策を「重点課題」と位置つけた取組の内容について、およびシカネットに変わる「三本集植造林による膝下刈」などの事例(大分西部署)⑦赤外線カメラによるシカの行動把握と猟友会との協定によるシカ捕獲の取組について(鹿児島署)報告がありました。



意見交換の場で質問をする参加者



北薩森林管理署

出水森林事務所

首席森林官 森永敏朗

石堂山と言えば宮崎県西米良村の九州中央山地に響える標高1547mがよく知られています。知名度は低いです。当署管内にも紫尾山の北東部に標高600・1mの「石堂山」があり、今回、この石堂山を通り出

「出水市と宮之城町を結んでいた古道」 ～ 参勤交代、西南の役にも利用 ～

水市と宮之城町（現在さつま町）を結んでいた古道、「殿道」を紹介します。

「殿道」は、藩政時代に殿様が参勤交代の折りに利用したと

の由来が残っている旧街道です。明治10年の西南の役の際にも利用されたと伝えられ、「殿様道」、「殿様道路」などと言われ、

出水市から宮之城町までの道路です。実在する部分は延長7キロ余りの道路

（幅1.5m程度）で、国道328号線を出水市から定之段を過ぎ、さつま町へ向かう坂道の途中左側に広域林道北薩1号線が入っている

ので、その入り口から約2・3キロ山間部に進んだところに、「殿道の由来」と表示された看板が立っています。

「殿道」途中の国有林には、「桶ノ谷植物群落保護林」があり、樹齢100年生のスギやカシ、シイ類の針広混交林の林分

があります。その林内には希少種の「ヒノタニシダ」が確認されており、平成3年3月31日に、学術研究などに資することを目的に植物群落保護林として設定されました。

また、定之段川の源流となる清水を見ることが出来る外、国有林内稜線途中の平四郎山からは、国道328号線の豊かな森林と溪流、出水市内が遠望でき

見応えがあります。皆さんも古き時代に思いを馳せご家族で訪ねてみられては如何でしょうか。



(上) 出水市とさつま町を結んでいる「古道」の状況
(下) 広域林道北薩1号線の途中に設置された「殿道由来」の看板

森とのふれあい「森林教室」

【熊本森林管理署】金峰山の

平山国有林で熊本市立若葉小学校の児童90人を対象に森林教室を行いました。肌寒い天候の中、児童らは、保育間伐と枝打作業を体験。枝打作業では、枝が落ちる度に歓声が上がります。間伐作業では、恐る恐るノコギリを使用し、木が倒れる瞬間は、感動と達成感で目が輝いていました。児童たちにとって初めての経験でしたが、全員が積極的に取り組み、森林を育てる大切さ、大変さを体験できた有意義な一日となりました。



ノコギリを使用し間伐体験をする児童ら川熊本

対馬の森林・林業・木材産業の取組を視察

森林資源の循環利用等を取材

平成24年1月24日・25日の2

日間、九州森林管理局林政記者クラブ6社（林材、林業、日刊木材、林経、サイモク、西日本林材）による現地視察を行いました。

これは、森林・林業・木材産業および国有林への理解を深めていただくことを目的に行ったもの。平之山俊作局長らが長崎県対馬市の森林・林業などの取り組みについて現地を案内しま

2日目は、絶滅の恐れのあるツシマヤマメコなどの保護・増殖の取り組みを

した。

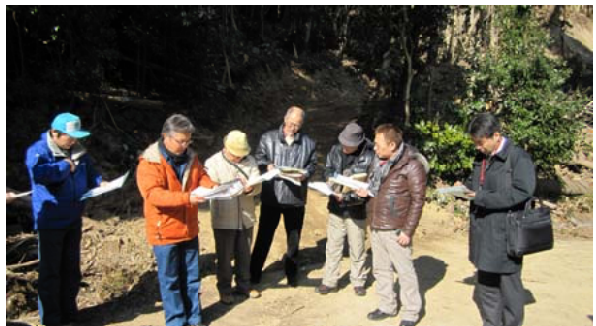
1日目は、間伐材や製材の副産物などを活用し、ラミナー用材や燃料用チップとして生産している対馬資源開発協業体を視察。森林資源の循環利用の取り組みについて取材を行いました。

また、豆酸龍良山自然保護林では胸高直径1.5mを超えるスダジイなど照葉樹林の取り扱いについての森林官の説明に記者らは耳を傾けていました。

行っている対馬野生生物保護センターを視察。生息圏周辺における広葉樹の造成や食餌植物の保護・増殖活動など国有林の取り組みに関心を示されていました。

また、対馬流域森林共同施業団地の取組状況や島外出荷などの取組現状について視察。各社からは多くの質問が寄せられるなど、国有林の取り組みに理解を深められた現地視察となりました。

(担当＝総務課)



対馬市の森林・林業について取材する一行



田中 紘門さん



私は山が好きでよく出かけます。大崩山をはじめ祖母山、傾山、五葉岳、夏木山など主に宮崎県北部の山をバイクで訪ねるのが楽しみの一つとなっています。

先日、宮崎県北部の大崩山を訪ねました。その帰路、国道326号線を下赤に向かう途中、オノツヤ谷で大規模なスギ林の伐採現場に遭遇しました。道路の東側斜面は広範囲に伐採され、数本に束ねられたスギがワイヤーの架線で搬出されていきました。ワイヤーは長いスパンが張りめぐらされていて、その作業光景は壮観で、ついつい半日ほど拝見していました。

「谷になった処は小川が流れていて山林は水瓶なんだなあ！」

出荷までの作業は機械化され数名で作業してゐるんだあ！山肌は30年振りの太陽の光を浴び喜んでゐる様だあ・・・」などと想像を膨らませながら見入っていました。また、跡地の植林計画

出会います。櫛(ナラ)、櫛(クヌギ)が有る森林では秋には紅葉が満喫できます。また、春にはそよ風に新緑がゆられ、アケボノツツジやシャクナゲ、ミツバツツジなどの花がきれいで心を和ませてくれます。山や森のために、何か貢献できないかと思

いから、モニターに応募したところですが、これからも山の自然を訪ね、見守っていきいたいと思っています。

(宮崎県延岡市在住)

跡地は広葉樹であれば！

ほとんどの樹木を植えるのだろうか？スギではなく、宮崎県中部にある緩地区の様な豊かな広葉樹の森林になればいいなあ、将来の林層を想像していました。

登山していると鹿・猪・猿に

現地で開設ポイントについて検討する参加者＝大隅



森林作業現地検討会を開催

【大隅森林管理署】曾於市財部町に位置する伊良ヶ谷国有林内において、鹿児島県や森林組合、林業事業者など70人が参加し、森林作業現地検討会を行いました。当署職員を講師に、公民館で森林作業道の路線の設計についての講義を行いました。午後からは、保育間伐請負実行中の現場でヘアピンカーブ昨設の手順について、具体的な開設ポイントを設定した説明を行い、参加者から高い評価を得たところです。今後は各事業者が各現場で技術向上に取り組むことを確認し検討会を終了しました。

「西表島森林生態系保護地域」

保全管理委員会を開催

平成24年4月に大幅に区域の拡大を予定している西表島森林生態系保護地域の適切な保全管理について検討を行う、西表島森林生態系保護地域保全管理委員会が2月3日、沖縄県の石垣市商工会館ホールで開かれました。

ため、忌憚のないご意見をいただきました」とあいさつ。
その後、座長に芝正己琉球大学農学部教授を選出し、議事に入りました。

冒頭、宮城勇朗計画部長が、「西表島のマングローブなどで構成される貴重な森林生態系を多くの方に理解していただき、将来にわたり適切に守っていく

九州森林管理局からは、森林生態系保護地域の区域拡大の経緯や区域の概要と課題、保全管理についての基本的な考え方などについて説明を行い、委員からは、「厳正な保護を図るべき保存地区の拡大は歓迎するが、西表島横断道の利用者の安全の確保のための行為には配慮すべき。利用者の満足のためだけの無秩序な利用は控えるべき」など多くの貴重なご意見をいただきました。同委員会では今後適切な保全管理と利用のための検討を進めることにしています。



保護区域の拡大について審議する委員の皆さん

児童ら森林の大切さを学ぶ

(担当：指導普及課)

【宮崎森林管理署】2月3日、憶振興会との共催で宮崎市立潮見小学校6年生児童101人を対象に森林環境教育「お届け講座」を行いました。当署森林ふれあい係長が、森林の持つ働き・



森林ふれあい係長の説明に聞き入る児童ら＝宮崎

地球温暖化防止などについてスライドを使って説明。その後、サククラやヒノキの枝を使ってモックン作りや丸太切り体験を行いました。寒い1日でしたが児童らは一生懸命に鋸を引くなど額に汗を流し真剣に取り組んでいました。児童からは、「森林が災害から守ってくれていることがわかった。森を育てるのは大変だ」などの感想が寄せられ、森林の大切さについて理解を深めてもらうことが出来た「お届け講座」となりました。

「ニッセイ都城の森」で育樹祭

【都城支署】当支署と分収造林契約を結んでいる「ニッセイ都城の森」で育樹祭が行われ、

ニッセイ緑の財団およびニッセイ社員など関係者36人が参加。当署からは工藤孝支署長をはじめ4人が指導にあたりました。ニッセイの森は全国に設定されていますが、間伐を目的とした育樹作業は今回がはじめての取り組みです。参加者は4班に分かれ間伐を体験。間伐した木は好きな大きさに切って持ち帰るなど、楽しい体験が出来た1日となりました。

第15回『綾プロ』連携会議及び事業説明会を開催

1月19日に宮崎県綾町役場会議室において、綾の照葉樹林プロジェクト(綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画)第15回連携会議が、関係機関5者(九州森林管理局、宮崎県、綾町、日本自然保護協会、てるのはの森の会)の出席のもと、開催されました。

会議は、平成23年度事業取組・進捗状況が主な議題で、各事業の現時点の取組状況が説明され了承されました。

また、同日に綾町・高年者研修センターにおいて、多くの地域住民などの参加のもと、綾プロ関係機関5者により事業説明



議題について説明する関係者＝綾町役場



作業終了現地で記念撮影＝都城支署

共同で海岸保安林を清掃

【大隅森林管理署】国有林野クリーン活動の一環として、鹿児島県大崎町にある海岸保安林「くいの松原」において、清掃作業を行いました。当日は大崎町役場、大隅素材生産事業協同組合、大隅森林管理署OB、巡視員など45人が参加。松林内に散乱する空き缶やペットボトルなどの一般家庭ゴミやタイヤなど軽トラック6台分を回収しました。「くいの松原」は保安林の役割を果たすとともに、地域の憩いの場として利用者の多い景勝地ですが、道路沿を中心に不法投棄があり、改めて人間のモラルについて考えさせられました。



不法投棄ゴミを回収する参加者＝大隅

た。今回のクリーン活動の取り組みは、新聞にも掲載され、不法投棄防止をアピールをするこ

背振小学校で森林教室

【佐賀森林管理署】神埼市立背振小学校で5・6年生児童35人を対象に、NPO法人ビック・リーフと共同による森林教室を実施。はじめに樹木の種の生き残り戦略について勉強しました。①風で運ばれるもの②鳥や獣



種名はヤブツバキ、ツバキのどちらでしょう。いろんな調査

報告はヤブツバキになっていきます。私は種名を「ヤブツバキ」というのも元来野生のものがツバキだから不必要（保育社・原色日本植物図鑑）の説をとってツバキで表記しています。

花卉と一緒に散るのがツバキ、バラバラに散るのがサザンカが通説です。その理由は、花冠の内側の下部とオズイ筒の下部とが合生し、花糸は下部が花卉と合生しているためと合理的に説明され、花を解剖することによ

よって運ばれるもの③海流で運ばれるものなど、いろんな種について学びました。次に、子孫を残すため風で運ばれる翼を持った種がどのように飛散するかを実験しました。グライダーのように滑空する種、回転しながら落ちる種など、児童たちは、楽しそうに種を飛ばして確認していました。先生からは、「勉強になり、こんな森林教室もいいですね」などの感想が聞かれました。



種飛ばしに挑戦する児童ら＝佐賀

53 ツバキ (ツバキ科)

り納得できます。ツバキの花は全部が一緒に落ちますが合弁花ではなく離弁花です。ツバキの名前は、ツバキの葉から厚葉木（厚い）、艶葉木（光る）から付けられたそうです。

樹木の中には、日光が当たらないと育たない樹木（陽樹）と日が当たらなくても育つ樹木（陰樹）があります。ツバキは一般的に暖かいところに分布しますが、日陰でも育つ性質があり陰樹に分類されています。

ツバキは本州から九州の海岸近くに生え、監物台樹木園の野生のツバキは、入り口からすぐ



の東の奥にあります。



全国の野生鳥獣による農作物などの被害は昨年度、8万8000羽、186億8200万円に上った。特に3大害獣のシカ、イノシシ、サルの被害が甚大である。私たちにとっては森林生態系の脅威ともなっているニホンシカの被害対策が大きな課題となっている▼先月末、熊本市で「第2回シカ捕獲業務検討会」が開かれた。各署等から取り組みが報告され、個体数調整のための捕獲技術の向上について意見が交わされた。今月末には大分県佐伯市でシンボジウムが開かれ、増えすぎたシカの影響について情報交換が行われる予定だ。今やシカ対策は、待ったなしの問題だ▼この冬、北日本や日本海側を中心に3桁を超える積雪。青森市の酸ヶ湯では、平成18年豪雪の4.53倍に迫る。雪崩や雪下ろしの事故が例年にも増して多発し私たちの生活にも与える影響は大きい▼この厳しい自然環境の中、彼らほどのように生きのびていくのだろうか？▼人の手を加えず、自然環境の中で個体数が保たれ多様な動物の生活の場が維持される環境が何よりなのだが？（晴）